

研 究 紀 要

第 24 号

序 文	島 田 雅 治	1
「表現」と「理解」の関連指導	川 津 啓 義	3
—— 読みの力が書く力に転移する指導の実践から ——		
直観的な見方、考え方と展開図の指導例	石 田 美 吉	11
デザイン教育への一考察	寺 尾 堂	19
—— 中学生のデザイン教育のあり方 ——		
舞踊的イメージについて	麻 生 和 江	27
男女共学による木材加工 1 の実践	西 山 昇、前島安秀	35
—— 合板によるボックスの製作 ——		
中学校英語科指導（動詞編）.....	田 辺 裕 弼	43
—— 現在完了時制の指導とその形成的評価 ——		
言語活動の劣っている精神薄弱児の指導（Ⅱ）	安 食 厚、加田紀機	53
—— A 児の姿の変化を見つめて ——	横山康二、中沢礼子	
研究活動の概要	研 究 部	63

昭和 56 年 3 月

島根大学教育学部附属中学校

序 文

学校長 島田雅治

本年4月から、新教育課程が中学校でも完全実施されることになっているが、回の改訂のねらいの重要な一つに、「ゆとりあるしかも充実した教育」がうたわれている。そして、そのために教育内容の精選や授業時数の削減などを行い、その実をあげるよう配慮されている。しかし、これが本当に成果をあげ、充実した教育ができるか否かは今後の実践と努力に待たなければならない。

しかし、「ゆとりある教育」を実現するためには、ただ単に教育課程の改善をはかるだけではなく、児童生徒の側のゆとりや、教師の側のゆとりが確保されなければならないことはいうまでもない。すなわち、それは決して教育内容や授業時数の量的削減のみではなく、むしろ児童・生徒と教師の側の姿勢や質的向上がより多く期待されるのである。子どもたちは、受身的な教えられる存在ではなくて自ら学びとる存在となり、自分で問題をみつけ、追求し、ひとりひとりが生き生きと自主的・主体的に学習に取り組む存在とならなくてはならない。と同時に、教師も教育に生きがいを感じ、忙しくても楽しく自ら心のゆとりをもつと共に、幅広い教養と教育内容や教育方法などについて、専門的に高い識見をもち、余裕をもって教育実践にあたることができるようにならなくてはならない。そのためには、教師の側の絶えざる研修や研究が強く望まれるのである。

ところで、この数年来一方では、教育課程の改善の外、入試制度の改善および教師の質的向上などへの努力が積み重ねられ、教育の進歩・発展がはかられているにもかかわらず、他方では家庭内暴力、学校内暴力、登校拒否などを含む青少年の非行が増加し、昨年は国内十大ニュースの中にあげられるまでになっている。そして、教育界は混乱し、動揺し、誠にうれうべき状況となっている。その原因については、いろいろと指摘されているが、その多くは家庭環境や学校教育のあり方および現代社会そのものの中に伏在しているといえよう。子どもたちは、これらによって複合汚染されているといわれている。

カレル (Alexis. Carrel) は、すでに早く、1935年に「人間—この未知なるもの」(MAN THE UNKNOWN) という書物を出版しているが、その中で「人間の持つ広大な内なる世界はまだ知られていない」といって、「人間に関する知識が

ずっと遅れているのは、……人間が複雑でありすぎる」と述べている。そして、さらに「学校や大学で行われる教育は、主に記憶や筋肉を訓練し、社会的マナーを教え、運動選手を崇拜することにある。そういう訓練は、釣合いのとれた知性や安定した精神状態、健全な判断力、大胆さ、道徳的勇氣、忍耐力などが何よりも必要とされる現代人にとって、本当に適したものであろうか」といって、人間研究の困難性と必要性を示唆すると共に、教育の問題点を指適している。

思うに、教育の目的は人格の完成であり、人間教育こそ教育の究極的なねらいである。そして、口を開けば、人間教育、人間教育とその重要性を強調しているのだが、カレルもいうように、われわれは本当に人間を理解し、子どもを理解しているのであろうか。それどころか、今日人間教育の重要性が叫ばれば叫ばれるほど、逆説的にいえば、今日の教育に人間教育、人間的要素が欠けた教育が行われていることを雄弁に物語っているといえよう。ここに、受験本位、偏差値中心、知識偏重教育などといわれている理由がある。幸いに、今回の新教育課程では、人間性豊かな児童・生徒の育成がとかれ、知育、徳育、体育の調和的発展が期待されている。

以上のように、今日の教育界は極めて多くの問題をかゝえ、まさに苦悩している。しかし、これらの問題はわれわれの研究と努力によってなんとか解決をはからなければならない。こうした時期において、ささやかではあるがここに研究紀要を出すことができることは、喜びにたえない。こうした研究を通して、少しでも教育の改善に資すると共に、自らの教師としての一層の質的向上にも役立つものと信じている。大方のご批判とご叱正を頂ければ幸いである。

昭和 55 年度 本校教官の研究活動

研 究 部

I 共同研究 学習のダイナミック化と形成的評価 —情意領域に視点をあてた学習指導— (昭和54年度 教育方法等改善経費研究報告書)

II 個人研究

1. 研究発表 (口頭)

田辺福夫 「語り指導の実践 —単元の構成とその展開—」 島根国語懇話会第24回大会
(於 島根大学教育学部附属中学校)における基調提案 S55. 8. 21

川津啓義 「事実と自分の考えを明確に表現する作文指導—書き手の立場で文章を読む指導をめ
ぐって—」第28回全国国語教育研究協議会広島大会(於 広島市立国泰寺中学校)
S55. 11. 7

岡 賑悟 「学習の深化、補充をはかる形成的評価と指導法の改善研究」第3回附属学校教育方
法等改善研究発表協議会(於 宇都宮大学) S55. 11. 7

石飛隆雄 「演奏発表 —フルートアンサンブル—」島根大学フルート専攻生島根フルート友
の会(於 島根県民会館中ホール) S56. 3. 20

田中義浩 「演奏発表 バリトン独唱」第4回定期公演浜田少年少女合唱団(於 浜田市民
会館) S55. 5. 11

田中義浩 「演奏発表 バリトン独唱」吉見政男先生追悼演奏会(於 浜田市民会館)
S56. 3. 25.

寺尾 堂 「美術科授業研究と閉回路TVの利用」第19回大学美術教育学会(於 神戸大学)
S55. 11. 7

寺尾 堂 「立体デザインの授業の進め方について」益田市、美濃郡、鹿足郡小中学校デザイン
研修会(於 島根県益田市) S56. 2. 6

麻生和江 「舞踊における運動と感情のかかわりについての一考察」第31回日本体育学会
(於 島根大学) S55. 12. 13

西山 昇 「トランジスタの交流増幅回路の指導」産業教育研究連盟研究集会(於 東京)
S55. 8. 4

安食 厚・加田紀機・横山康二・伊藤礼子 「自己をだしきる集団づくりをめざして」第4回
障害児教育を語る会(於 島根大学教育学部附属小学校) S56. 2. 20

2. 掲載論文

岡 賑悟 「新しい評価の考えをとり入れた実践 —学習のダイナミック化と形成的評価—」
教育技術 中学教育(小学館) S55. 7

岡 賑悟 「教師の活動に即した形成的評価のあり方」授業研究(明治図書) S56. 3

- 石飛隆雄 「中学生のフルート指導について」 日本フルートクラブ会報(日本フルートクラブ) 286~289
- 田中義浩 「昭和55年度NHK学校音楽コンクール“心”を歌うこと」 教育音楽中・高版音楽の友社 S56. 2
- 麻生和江 「舞踊におけるコミュニケーションについての考察」 東京体育学研究第7号 S55. 11

3. 著 書

- 間田浩彬 「新社会科と基礎的・基本的事項」 島根県社会科教育研究会編著(明治図書) S56. 3
- 山崎裕二 「新社会科と基礎的・基本的事項」 島根県社会科教育研究会編著(明治図書) S56. 3
- 秦 明德 「島根の理科ものがたり」 島根県小中学校理科教育研究会編著(日本標準) S55. 11

4. 作品発表

- 川津啓義 書「家」墨人会京都展(京都美術館) S55. 9
- 寺尾 堂 デザイン「イラストレーション」現代美術家協会イラスト展(東京) S55. 2
- 寺尾 堂 デザイン「ポスター」現代美術家協会現展(東京・名古屋・北九州) S55. 6
- 寺尾 堂 デザイン「ポスター、その他」島根県デザイン連盟デザイン展(松江) S55. 7
- 寺尾 堂 デザイン「ポスター」島根県総合美術展デザイン展(松江、益田) S55. 11
- 寺尾 堂 デザイン「イラストレーション、その他」デザイン3人展(松江) S56. 1